



伊達が小咄

The Date museum presents Date na kobanash...



杏葉紋付円鏡
所蔵：公益財団法人鍋島報効会



■平成25年度 宇和島市立伊達博物館特別展

『結の華 - 佐賀鍋島家と宇和島伊達家の幕末・明治 -』

佐賀鍋島家と宇和島伊達家との縁は深く、江戸時代には3組の縁談が結ばれています [5代村候(護姫)、7代宗紀(観姫)、8代宗城(猶姫)]。また、両家とも明治期には侯爵となり、江戸から明治を通して活躍した大名華族です。

今回の展示は、これらの縁から両家に伝わる大名家ならではの婚礼調度品、幕末期を中心とした大砲などの西洋軍事や両家の親交が伺われる品など、従来伊達博物館では公開する機会が少ない侯爵家ゆかりの華やかな品も公開します。

だてさんちのひでむにえくん

作：イワサキヒトシ



■第1展示室 - 大名華族 -

明治維新以後、新政府は天皇を補佐する特権階級を設け、江戸時代各地に君臨した諸侯は「華族」に組み入れられました。全国8位の石高を誇る佐賀鍋島家は明治17年に侯爵を叙し、宇和島伊達家は明治24年に伯爵から侯爵を叙することとなります。昇格の理由は、8代宗城の勲功によるものといわれています。

■第2展示室 - 婚礼の華 -

江戸時代、大名家の婚礼は藩と藩とをつなぐ重要な意味を持っていました。そのために準備された婚礼調度品は、あらゆる贅を尽くしその数も膨大だっ

たようです。伊達家には、鍋島家から迎えた3人の姫君に由来すると考えられる鍋島家の家紋・杏葉紋の付された華やかな調度品が伝来しています。

■第3展示室 - 幕末の華 -

佐賀では、藩御用の鍋島藩窯、鍋島更紗、鍋島緞通などの優れた工芸品を産出し鍋島ブランドを確立し今に伝えています。

特色ある文化が華開いた一方、幕末期の日本は欧州列強が押し寄せる国際情勢の不安定な時期でもありました。佐賀藩や宇和島藩は、積極的に西洋文化を取り入れ、開明的な政策により軍備を強化していきました。

■今月のひでむにえくん 天赦園は江戸時代の終わりごろにお殿様のために築かれたお庭です。今では多くの方が季節の草花やお庭の風景を楽しめるようになっています。特に、4月の上旬から太鼓橋の上を白く彩る形で花が咲く白玉藤が有名です。毎年春(4月中~6月ごろ)と秋(特別展期間中)には、お茶会も開かれ、何とも心おだやかでステキなひとときを過ごせますよ!



【問合先】 伊達博物館 ☎22-7776

展示期間：9月6日(金)~10月14日(月) ※9月6日(金)のみ、午前10時から開館

開館時間：午前9時~午後5時 (受付は午後4時30分まで)

休館日：月曜日・年末年始 9月3日(火)~5日(木)・10月16日(水)~18日(金)

入館料：大人 500円 / 高校・大学生 400円 / 小・中学生 無料

※次回は広報うわじま 11月号で!!

広報うわじま 9月号 30

■前回のひでむにえくん... Q:なぜスズメを狩るのをガマンした? A:伊達家の家紋(このページの左上にあります)にスズメが描かれているからです。